

えんやんちがっせ

～広汎性発達障害
の理解のために～



はじめに

広汎性発達障害という用語をお聞きになったことはあるでしょうか。自閉症の研究が進む中で明らかになってきた障害の新たな概念です。

人とのコミュニケーションが取りにくいなどの特徴がありますが、脳機能の障害によって起きるものであり、養育の仕方の問題があるわけではありません。

大阪府では広汎性発達障害のお子さん達が、身近なところで発達支援を受け、安心して暮らせるような施策に努めているところですが、この障害への認識は十分なされているとは言えません。

「ええやん ちがっても～広汎性発達障害の理解のために」は、広汎性発達障害を正しく理解し、この障害のあるお子さん達に適切な援助がなされることを願って作成したものです。保護者をはじめ多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、大阪自閉症研究会の皆様には、本冊子監修に多大なご尽力をいただき、こころからお礼申し上げます。

平成18年3月

大阪府健康福祉部障害保健福祉室精神保健福祉課長

野田哲朗

もくじ

1. こんな子もいます 3
2. 「広汎性発達障害」ってなに？ 8
3. どうしたらいいの？
～子どもとの接し方(幼児期～学童期) 11
4. 相談機関 29



1

こんな子もいます

いろいろな子がいます。

背の高い子もいれば低い子もいます。足の速い子もいれば遅い子もいます。いろんなタイプの子がいます。

「広汎性発達障害」も、いろんなタイプの一つです。



広汎性発達障害、自閉症スペクトラム、自閉症、自閉性障害、自閉傾向、非定型自閉症、アスペルガー症候群(障害)、特定不能の広汎性発達障害等、様々な名前がありますが、広い意味ではすべて同じグループだと考えられています。この冊子ではこれらを総称し「広汎性発達障害」と呼んでいます。

人とのつきあい方の特徴

※ これは特徴の一例です

一人遊びに熱中する

話しかけているのに、
しらんぷり



やりきれない・・・
どうして、通じないの？

友だちのルール違反を指摘する

スーパーなどで、
親から離れてウロ
ウロ



うまく友だちの輪に入れずに、孤立
したり、からかわれたりする

コミュニケーションの特徴

※ これは特徴の一例です

会話がちぐはぐで、
キャッチボールに
ならない

相手のことばを繰り返す

しゃべり方が独特

いつも標準語や丁寧語

言われたまま受け
止める
冗談が通じない

たくさんしゃべるわりに
理解していない



乳幼児期には

- 指さしに応じなかったり、自分から指さしを使うことも少ない。
- 視線のやり取りに乏しく、人の手を道具のように使う(クレーン動作)など、ことばの遅れ以外の特徴が見られる場合があります。

想像力の特徴

※ これは特徴の一例です

キャラクターや虫、マークなどに凝って、コレクションに夢中



車や電車、時刻表にとっても詳しい

回っている
扇風機やファン、
木の葉などをずっと
飽きずに眺めている



早くから
アルファベットや
数字が読める



初めての場面で大混乱



予定が急に変更になると
パニックになる



からだの感覚の特徴

※ これは特徴の一例です



人に触られるのは嫌い
でも自分から触るのは、
大丈夫



ピストルなどの大きな音や
人ごみの雑音などが嫌い

触音



好き嫌いが
激しい。
白いご飯やスナック菓子
しか食べなかったり、
野菜が絶対ダメだったり
する

味光



光をまぶしがる
キラキラしたものが好き

臭い



特定の匂いが
気になってしまう



身体の使い方が
どことなくぎこちない
ダンスや縄跳び、
跳び箱などが苦手



2

「広汎性発達障害」ってなに？

広汎性発達障害は、中枢神経系の何からの機能不全で起こると推定されています。育て方や家庭環境が原因で起こるものでもありません。

3つの主な特徴

広汎性発達障害には
次の3つの特徴があります。
特徴の現れ方は一人一人違います。

1

社会性の獲得や対人関係の難しさ

他の人と相互にやりとりすることが苦手です。また、人とのつきあい方のルールや社会の常識がわかりにくいという特徴もあります。一人でいることを好む子どももいれば、一生懸命友だちを作ろうとするけれども一方的で嫌がられてしまう子どももいます。

2

コミュニケーションの特徴

アスペルガー症候群の子どもは、コミュニケーションの
困難さが一見あまり目立たないことがあります。

コミュニケーションには大きくって、会話に代表されるような“ことばでのやりとり”と、身振りや視線などを使う“ことば以外でのやりとり”とがあります。広汎性発達障害の子どもの多くは、こうしたコミュニケーションが一般的に苦手です。

3

想像力の特徴 (興味のかたより)

想像力とは、「こうかな、ああかな」と推測する力です。この想像力がうまく働かないと、気持ちを切り替えたり、融通を利かせたりすることがうまくできません。“いつもどおり”が安心なために、初めての場所に行きたがらなかつたり、日課や予定の変更を嫌がったりします。

また、興味にかたよりがみられ、不自然なほど同じ遊びを繰り返したり、極端なコレクションをしたりすることがあります。

その他の特徴

が見られる場合もあります。

からだの感覚の特徴

五感(視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚)に代表される様々な感覚にかたよりをもち子どもがいます。

動作や手先の使い方の特徴

動作がどことなくぎこちない子どもがいます。
また、手先が不器用な子どももいます。

★ この他、睡眠に問題を抱えた子どももいます

広汎性発達障害と知的障害はちがいの？

ちがいます。しかし、広汎性発達障害の人のうち半分くらいは、知的障害を合併していると言われています。

知的障害のない広汎性発達障害の人は、アスペルガー症候群や高機能自閉症と呼ばれます。

広汎性発達障害かなと思ったら？

広汎性発達障害の診断は、医療機関で慎重になされます。

血液検査、CT スキャン検査、脳波検査などの医学的検査は、身体の病気があるかどうかを調べるためにおこなわれることがあります。これらの検査によって広汎性発達障害かどうかを診断することはできません。同様に知能テストや発達テストは、その子の知的発達の特徴を理解する上では大切ですが、それだけで診断はできません。

広汎性発達障害が疑われる場合、一度専門機関にご相談ください。

どうして相談が必要なの？

広汎性発達障害の特性は、暮らしや人づきあいの苦勞につながるがあります。広汎性発達障害という診断はレッテルを貼ることはありません。周りの人がその子どもの特徴を正しく知り、適切にサポートをすることが大切です。その子らしく、生き生きとした人生を送れるように、専門機関もご家族と一緒に応援します。

3

どうしたらいいの？ ～子どもとの接し方(幼児期～学童期)

広汎性発達障害の特性を理解し、子どもと接する方法について、いくつか例をあげます。

1. 子どもが安心できる環境を整えましょう

特性

状況がわからない



場面の意味がわかれば
適切に行動できる

変化が苦手



あらかじめいつもと違うことが
わかれば安心

耳で聞いて
理解することが苦手



目で見て
理解することが得意

情報が多いと混乱



よけいな刺激を減らせば
わかりやすく安心

「見通しの立つ環境にします」

生活の見通しが立つことは、安心を与え、
社会性を伸ばす基礎になります

【 子どもに伝える内容 】

- ・ 毎日の日課をなるべく一定にして見通しが立つように配慮します。
- ・ 初めての経験や予定の変更がある場合、ことばで説明するだけでは十分に理解できないことがあります。
- ・ 「いつ」「どこで」「なにを」「いつまで」「どのようなやり方で」するのか、「終わったら次に何をするのか」をはっきり伝えます。
- ・ 特に活動の「終わり」は明確にします。

【 伝える方法 】

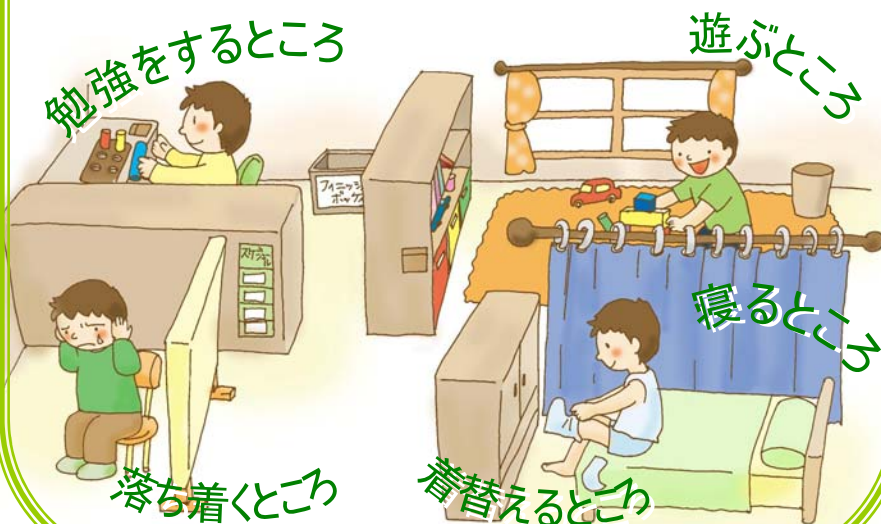
- ・ 一日の日課や予定の変更を目で見てわかるように、活動に関連した物や、絵・写真カードで示したり、日課の流れを文字で書いて示したりします。
- ・ 変更の後には、いつもどおりの日課や楽しみがあることを示して、安心させることが大切です。



「場所と活動の意味を一致させます」

わかりやすい空間は、
子どもの自発的な行動を促します

- その場に行けば活動内容がわかるように、“勉強する”、“遊ぶ”、“食事をする”等の活動と、それをおこなう場所とが、できるだけ1対1で対応するようにします（ついたてやカーペットを利用して部屋を区切る方法もあります）。
- その場に関係のないものは片付けます。
- 不安になったときや混乱したときに、子ども自身が避難できるように、一人静かに落ち着ける場所やコーナーを工夫して用意しましょう。



特性

- ・ からの感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚)が、とても敏感だったり、逆に鈍感だったりします。
- ・ 感じ方が違います。

怪我をしても平気



雨が痛くも



接し方

幼児期

学齢期

「いやがることは、無理をさせないようにします」

- 生活の場面は何かと刺激が多く、疲れやすいものです。まずは子どもにとって不快なことを無理強いしないように心がけます。
- 刺激に慣れさせようとするのではなく、刺激を和らげる方法を考えます。音に過敏な場合、耳栓などを利用する方法もあります。

2. 人との関わりについて

特性

- ・ 人との関わり方が一方的です。
- ・ 友だちとのかかわり方が下手です。
- ・ 人づきあいの微妙なルールがわかりにくいです。

接し方

幼児期

学齢期

「人とのやりとりに
安心感を育てます」

やりとりが楽しくなり、
徐々に外の世界にも興味が広がります

- あせらず、子どものペースにあわせます。
- 一方的であっても子どもなりに大人に信号を出しています。こうした子どもからの信号に、できるだけタイミング良く応じるように心がけます。
- 子どもが喜ぶことから子どもの要求を引き出すようにします（例、身体接触を伴う遊び、手遊び、子どもが好きな絵を描く・好きな歌を歌う）。

「社会的なルールの理解の 仕方を教えてください」

- なぜその行動が良いのか(悪いのか)、いつどこでならその行動をしても良いのか等、本人にわかるようにきちんと理由を説明します。
- 不適切な行動に目を向けるより、日常的に望ましい行動がとれている時にしっかりとほめるようにします(例.「今日はあいさつできたね」「今日は“貸して”って言えたね」)。



- 社会的な理解を助ける一つの手がかりとして、ソーシャルストーリーズやコミック会話があります。

3. コミュニケーションについて

特性

- ・ ことばが遅れていたり、よくしゃべっていても、ことばの理解が苦手な場合があります。
- ・ 抽象的な言い方やことわざ、比喩、慣用表現が苦手です。
- ・ 表情、身振り、視線などがうまく使えません。

接し方

幼児期

学齢期

「自発的なコミュニケーションの力を育てます」

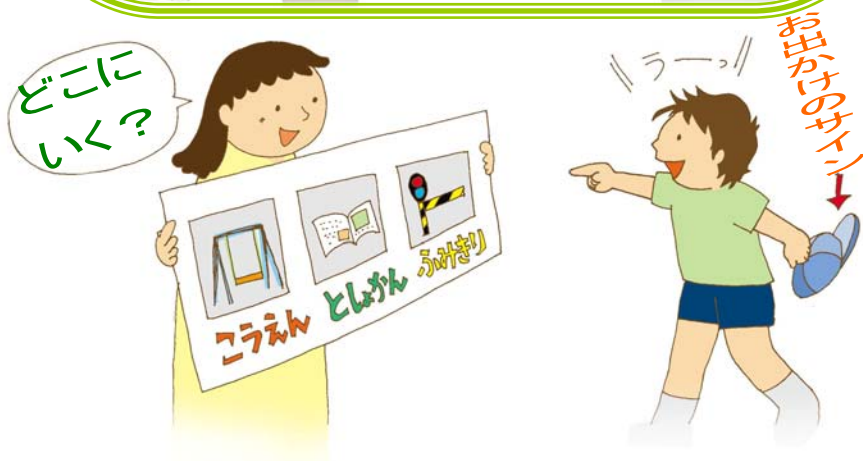
自分の意思や希望が伝えられるようにサポートします

- 話しことばによるコミュニケーションばかりに期待しすぎず、書きことば(文字)、身振りやサイン、カードの選択、実物を示すなど、どんな方法でも本人が使える方法で、自分から表現できる方法を増やすことが大切です。
- 特に「やめて(いや)」「いきません」「たすけて」「おしえて」等を自分で表現できるようにサポートします。

「肯定的な表現・態度を心がけます」

子どもにことばをかけるときは、「〇〇してはダメ！」ではなく、「〇〇します！」と短くはっきりと伝えます(例、「走ってはダメ！」ではなく「歩きます」、「大きな声を出さないで！」ではなく、「小さな声で話します」)。

ことばの理解が苦手な子どもには、絵カード等の見てわかる方法で示します。



4. 生活スキルについて

特性

- ・ 一般に自然とできると思われることも、具体的に教える必要があります。
- ・ 自分なりのやり方や手順にこだわる場合があります。
- ・ 感覚の過敏さが生活習慣の習得を妨げている場合があります。

接し方

幼児期

学齢期

「食 事」

- 食事場面から気を逸らす刺激は整理します(例. テレビを消す、テーブルに食事と関係のないものは置かない、食器を置く位置を一定にする等)。
- 偏食がある場合、どうしても受け付けられない味やにおいがあるのかもしれませんが。あるいは、初めての食べ物で受け付けられないのかもしれませんが。
 - ・ 量を減らして、一口食べたら、好きな食べ物を食べられるようにしてみます。
 - ・ どうしても食べられない場合、無理強いしないようにします。

接し方

幼児期

学齢期

「排泄」

- 食事の後など、決まった時間にトイレ(おまる)に座らせることを試してみます。
- トイレを怖がる場合は、トイレを快適な場所にするような工夫をします(例. トイレを明るくする、便座を温かくする、好きなキャラクターやロゴを貼る)。

接し方

幼児期

学齢期

「着脱」「歯磨き」など

- 絵に描いて示すなど、手順を目に見える形で示します。
また、靴の左右や衣服の前後等は印をつけるとわかりやすくなります。
- 一度に完璧をめざすのではなく、最初は手助けし、徐々に一人でできるように手助けします。

※ この他、毎日一定の十分な睡眠時間を取り、生活リズムを整えることが大切です。

「得意なことをほめてのばします」

好奇心や知識欲が旺盛で、好きなことには熱心に取り組めるという特徴から、独自の分野に豊かな知識がある子どもがいます。こうした強みを生かして、子どもの興味を良い方向に伸ばすように心掛けます。

特定のものへの
こだわりは、発達の
エネルギーになります。



「自分で選んで決めることを サポートします」

将来的に自分がしたいことを自分で選び、自分で決める力を育てるためには、子どもの頃から、日常生活の中で、自分で選ぶ経験を積み重ねておくことが役立ちます。



6. 不適切な行動に対して

接し方

幼児期

学齢期

「原因を見極めて対処します」

1. 原因やきっかけを考えます

周りからは不適切な行動に思えても、まずは子どもの身になって原因を探ります。(例. 状況が理解できない。指示がわからない。要求やNOが言えない。感覚に過敏さがある。など)。

本当にやめさせる必要があるのかも冷静に判断します。

2. 環境を改善します

多くの場合、環境の方を変えることで、不適切に見える行動は減少します。その後、適切な行動をしっかりほめるようにします。



「穏やかな声で 短く 注意します」

- 子どもは否定的なことばに敏感です。できるだけ肯定的な言い回しになるように配慮します(例「立ったらダメ」ではなく「座ります」)。
- 何をどうしたらいいのか具体的に伝えます。(「きちんとしなさい」「何回言ったらわかるの!」「どんな気持ちになると思うの?」ではわかりません)。
- 大きな声での叱責や体罰は、逆効果です。穏やかな声で、短く注意します。



「不安やストレスをやわらげる 方法を教えます」

気持ちをコントロールする方法は、一人一人違います。
(例. 深呼吸をする、数を数える、好きな感触のものを
触る、好きなもののスクラップを眺めるなど)。



「パニックには
落ち着いて対応します」

激しいパニックを起こしたときは…

1. その場から離し、静かな場所で落ち着くのを待ちます。



2. パニックがおさまったら、
「がまんできたね」などとほめます。



3. 会話ができる子どもなら、落ち着いた後で、穏やかに話を聞いてあげます。



7. 学校生活について

学校はそれまでとは違った新しい環境です。子どもたちは勉強だけではなく、学校生活での様々なルールや友だち関係等を通して、社会性を獲得していきます。その後の人生の基礎となる大切な時期でもあり、成人した後のことを見越した長期的な視点でサポートを心がけることが大切です。

接し方

学齢期

「学習に取りくみやすいように 配慮します」

【 座席の位置について 】

わずかな刺激で注意が逸れたり、空想にふけてしまったりする子どもがいます。保護者の了解を得て、子どもが授業に集中しやすい座席を考えます。それぞれの学校の事情に応じて、刺激が少ない場所を選ぶことが必要です。

【 学習にあたって 】

得意なことと苦手なことの差が極端に大きい子どもがいます。子ども一人一人の特性に応じた個別の教育プログラムが必要です。

4

相談機関

発達障害者支援センター

大阪府発達障害者支援センター アクトおおさか（大阪市以外に在住の方）	電話 072-662-0055 FAX 072-662-0056
---------------------------------------	-------------------------------------

大阪市発達障害者支援センター エルムおおさか（大阪市内に在住の方）	電話 06-6797-6931 FAX 06-6797-6934
--------------------------------------	-------------------------------------

児童相談所

大阪府子ども家庭センター（大阪市以外に在住の方）

中央	電話 072-828-0161	東大阪	電話 06-6721-1966
池田	電話 072-751-2858	富田林	電話 0721-25-1131
吹田	電話 06-6389-3526	岸和田	電話 0724-45-3977

子どもの悩み相談フリーダイヤル （子どもからの相談）	電話 0120-7285-25
-------------------------------	-----------------

大阪市中央児童相談所（大阪市内に在住の方）	電話 06-6797-6520
-----------------------	-----------------

堺子ども相談所（堺市内に在住の方）	電話 072-276-7123
-------------------	-----------------

精神保健福祉センター

大阪府こころの健康総合センター	電話06-6607-8814
-----------------	----------------

教育センター

大阪府教育センター（大阪市以外に在住の方） さわやかホットライン（保護者からの相談）	電話 06-6607-7362
---	-----------------

大阪市教育センター（大阪市内に在住の方） 養護教育相談	電話 06-6572-0567
--------------------------------	-----------------

親の会

(社)日本自閉症協会大阪府支部

電話 06-6694-0084

大阪LD(学習障害)親の会「おたふく会」

電話 090-1896-4465

その他の相談窓口

- 最寄りの保健所(大阪市は保健福祉センター、堺市・東大阪市は保健センター)
- 最寄りの保健センター(主に就学前の方)
- 最寄りの福祉事務所・最寄りの家庭児童相談室
(お住まいの市町村によっては、家庭児童相談室がないところもあります)
- 最寄りの教育研究所・教育センター
- 最寄りの地域療育等支援センター

あとがき

大阪自閉症研究会は、広汎性発達障害診療の充実のために活動する医師・心理士等の組織です。広汎性発達障害の診療に関わる医師の人材育成など、さまざまな啓発活動をしています。本冊子が広汎性発達障害の子どもの支援に少しでも役立つことができれば幸いです。



大阪自閉症研究会

監修 大阪自閉症研究会
イラスト 武井 陽子



監修:大阪自閉症研究会

発行:大阪府こころの健康総合センター

〒558-0056 大阪市住吉区万代東3丁目1番46号

TEL 06-6691-2811 FAX 06-6691-2814

ホームページ <http://www.iph.pref.osaka.jp/kokoro/>

発行年月日:2006年3月